



事業計画及び成長可能性に関する事項

2024年5月31日

1.

About Us

会社概要

会社概要

商号 株式会社STG

銘柄コード 5858（東京証券取引所）

創業年月 1975年11月

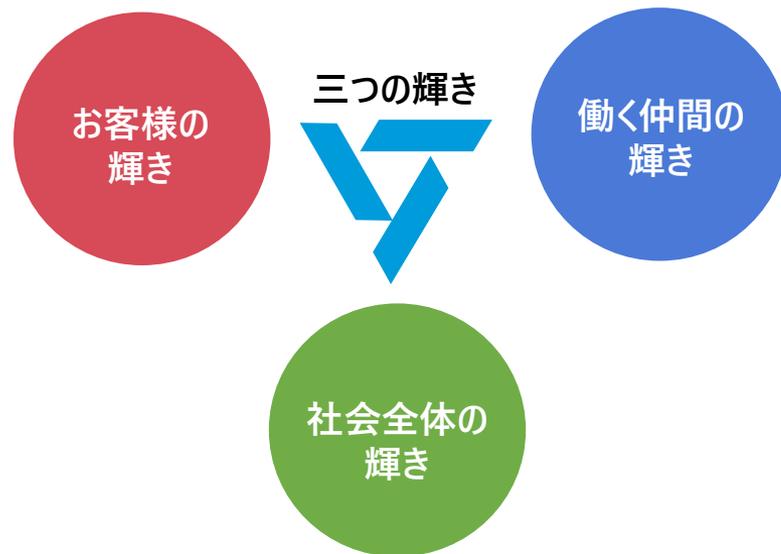
代表者 代表取締役社長 佐藤輝明

本社所在地 大阪府八尾市山賀町六丁目82番地2

事業内容 金属部品鋳造及び加工事業

資本金 3億2,754万円（2024年3月末時点）

従業員数 連結 827名
単体 64名（2024年3月末時点）



経営戦略

マグネシウム合金部品を中心とした電動車・自動運転関連軽量化ソリューションを戦略ドメインと定め、電動車等の普及に伴う市場拡大による成長機会を捉えます。

会社概要 - 沿革

当社初代社長 佐藤武幸が創業	SONYノートPC (VAIO) 筐体の加工開始	ブラスト加工装置を開発 (特許第4249079号) (注)	株式会社TOSEIを 子会社化 生産プロセスを拡大	深圳市 参輝精密五金 有限公司設立	東京証券取引所 TOKYO PRO Market 株式を上場	東京証券取引所 グロス市場 株式を上場
1975年11月	1997年	2004年4月	2011年6月	2011年12月	2019年6月	2024年3月

1982年6月
有限会社
三輝プラスト
設立

1998年8月
マグネシウム粉塵
爆発対策として
湿式集塵機を開発
(特許第3481487号)

2006年5月
三輝特殊技研
(香港)
有限公司設立

2011年9月
SANKI EASTERN
(THAILAND)
COMPANY LIMITED
設立

2015年4月
株式会社TOSEIを
吸収合併
株式会社STGIに
商号変更

2021年3月
STX Precision
(JB) SDN. BHD.
を買収
子会社化

株式会社TOSEI

● 1985年

日本初のマグネシウム専門メーカーとして
株式会社東静工業（後の、株式会社
TOSEI）が創業（現 静岡工場）

● 1995年

Panasonic向けP C
(レッツノート・タフブック)
筐体生産開始
(TOSEIと取引開始)

受賞歴 award history

● 2015年

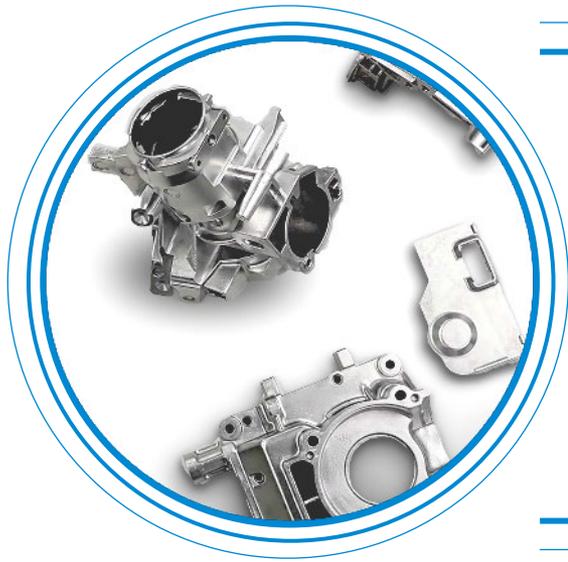
経済産業省ダイバーシティ経営企業100選に選ばれる

● 2017年

ジャパンベンチャーアワード（JVA）2017中小機構理事長賞 受賞

(注) ブラスト加工とは粒状の研磨材を投射、衝突させることで物理的に加工を行う工法。

当社グループは、軽量化金属部品の製造加工事業を行っております。



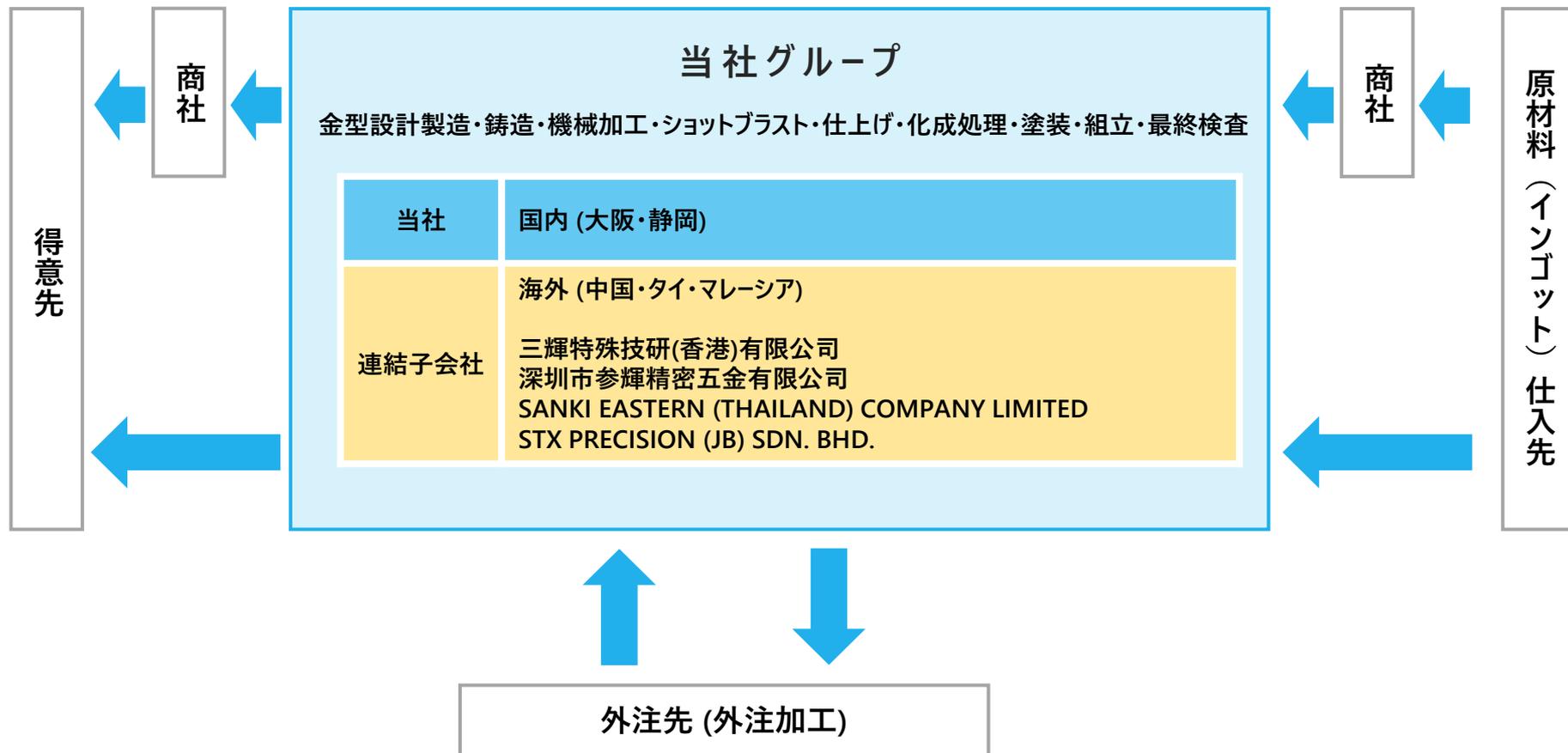
実用金属で最も軽いマグネシウムを中心とした

様々な工業製品の部品を製造加工することを得意としている会社であり

金型の設計・製造、金属部品の鋳造、機械加工、ショットブラスト、仕上げ、
化成処理、塗装、組立までを行う事業を展開しております。

アルミニウムダイカストについては、STX PRECISION (JB) SDN. BHD.を中心に、
品質を維持しつつ、軽量化とコストダウンをはかることを目的とした
グローバル企業に製品を供給しています。

会社概要 - 事業系統図



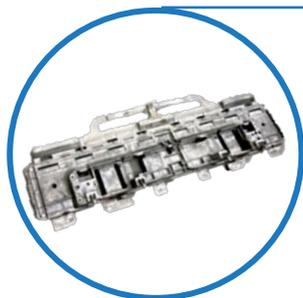
(注) 各工場の工程については次ページをご覧ください。

会社概要 - 事業内容 (生産工程)

(注) ○△は自社で取り扱っている工程です。
その他は外注しております。

工程	作業内容	大阪工場	静岡工場	中国工場	タイ工場	マレーシア工場
①	金型設計・製造 2D・3D CADを用いて鋳造の基となる金型の設計を行います。	×	△ 設計のみ	△ 設計のみ	△ 設計のみ	○
②	鋳造 ダイカスト法という成型法を用いて、 金型に溶かした金属を射出して製造品を製造します。	×	○	×	○	○
③	機械加工 マシニングセンタを使用した高精度の切削加工を行います。	○	○	○	○	○
④	ショットブラスト ショットブラスト機を使用して成型品のバリを落とします。	○	○	○	○	○
⑤	仕上 ヤスリやエアーツールを使用して手作業で表面仕上げを行います。	○	○	○	○	○
⑥	化成処理 金属の腐食を防ぐ防食や塗装の下地加工を行います。	×	×	×	○	×
⑦	塗装・組立 製品の塗装組み立てを行います。	×	×	△ 組立のみ	×	○
⑧	最終検査 各工程間でも検査を行います、 三次元測定機を用いた精密な検査など 完成品として入庫前に最終検査を行います。	○	○	○	○	○

会社概要 - 事業内容 (主な取扱製品)



自動車メーターパネル

業界 自動車メーカー

材質 マグネシウム合金



光学機器フルサイズ
ミラーレスの外装シャーシ

業界 映像機器メーカー

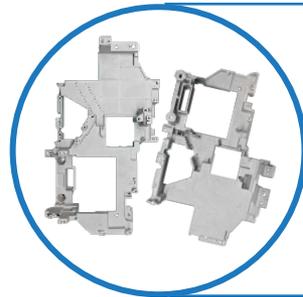
材質 マグネシウム合金



監視カメラ

業界 映像機器メーカー

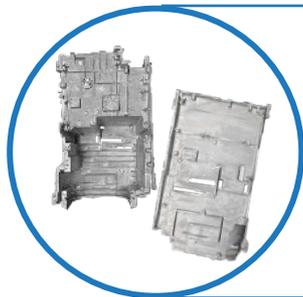
材質 アルミニウム合金



エンジンベース

業界 映像機器メーカー

材質 マグネシウム合金



ムービーカメラのハウジング

業界 映像機器メーカー

材質 マグネシウム合金



LEDヒートシンク

業界 照明機器メーカー

材質 マグネシウム合金

会社概要 - 事業内容 (拠点別)



主な 製造部品



取り扱い 素材



主要 取引先

日本
大阪・静岡

高付加価値カメラ製品
電動自動車部品
自動車部品等の二次加工

マグネシウム合金
アルミニウム合金

精密機器メーカー
電機メーカー
自動車部品メーカー

中国 (注)

プロジェクター部品
プリンター部品
ドローン部品

マグネシウム合金
アルミニウム合金
亜鉛合金

精密機器メーカー
電機メーカー

タイ

高付加価値カメラ製品
電動自動車部品

マグネシウム合金

精密機器メーカー
電機メーカー
自動車部品メーカー

マレーシア

産業用精密機器部品
電動車部品
医療機器部品

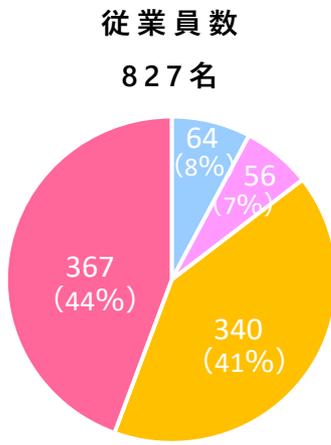
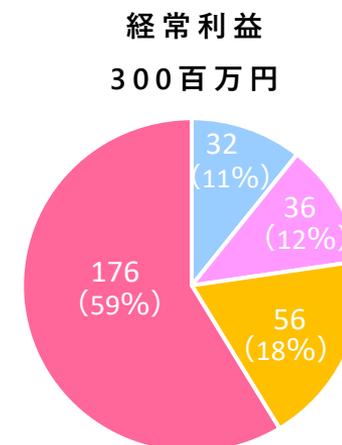
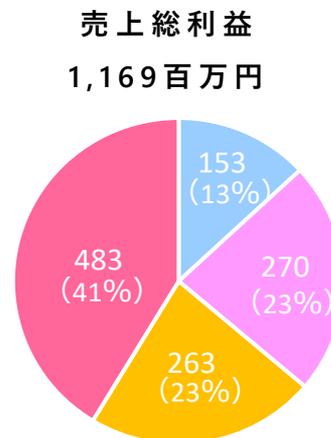
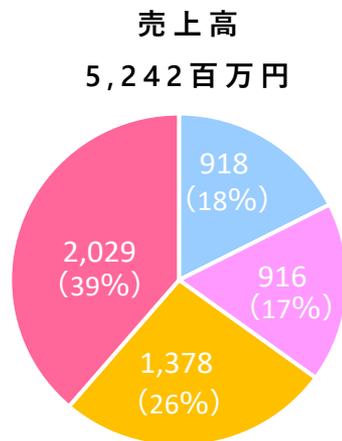
アルミニウム合金
亜鉛合金

産業用精密機器メーカー
自動車部品メーカー
医療機器メーカー

(注) 中国には、香港を含んでおります。これは、香港法人が中国法人の商社機能を担っているからです。

会社概要 - 拠点

※2024年3月期時点



■ 日本 ■ 中国 ■ タイ ■ マレーシア

※売上高・売上総利益・経常利益の地域ごとの金額は、生産地を基礎として、分類しております。
なお、中国には香港を含んでおります。

2. | Business Environment 市場環境

- ① マグネシウム部品の需要予想
- ② アルミニウム部品の需要予想
- ③ 競争環境・競合他社比較

市場環境 - ① マグネシウム部品の需要予想

マグネシウムの需要予想

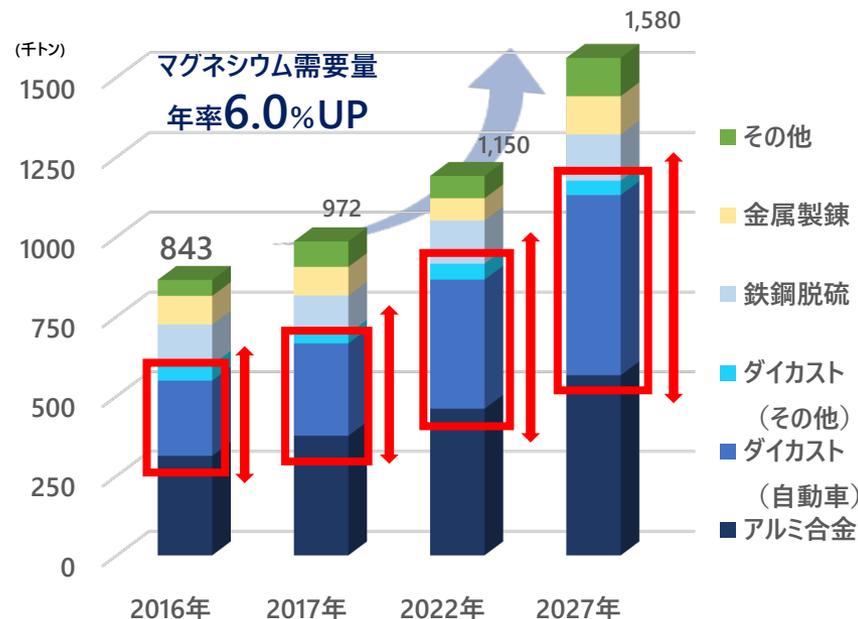
マグネシウムの需要推移は右表のとおり、急増期に入っております。

マグネシウムの需要量は2017年以降10年の間、**年率6.0%の成長**を続け、2027年には158万tにまで拡大することが見込まれております。

こうした急速な需要増を引き起こしている最大の要因は、**自動車の軽量化ニーズ**であります。

自動車部品に使うマグネシウムの需要は、2016年に比べ、2026年には約57万tと**2倍を超える見込み**であります。

 ... 当社グループがメインターゲットとしている自動車向けマグネシウムダイカストの需要量



〔CM Group社のIMA国際会議発表資料による（日本マグネシウム協会提供）2018.10.26〕

市場環境 - ① マグネシウム部品の需要予想

自動車の軽量化ニーズ・マルチマテリアルへの対応

マグネシウムの急速な需要増を引き起こしている最大の要因は**自動車の軽量化ニーズ**です。カーボンニュートラル時代においてこれは加速化しています。対象は、車・飛行機・電車・ロボットなど移動や動きを伴う製品です。

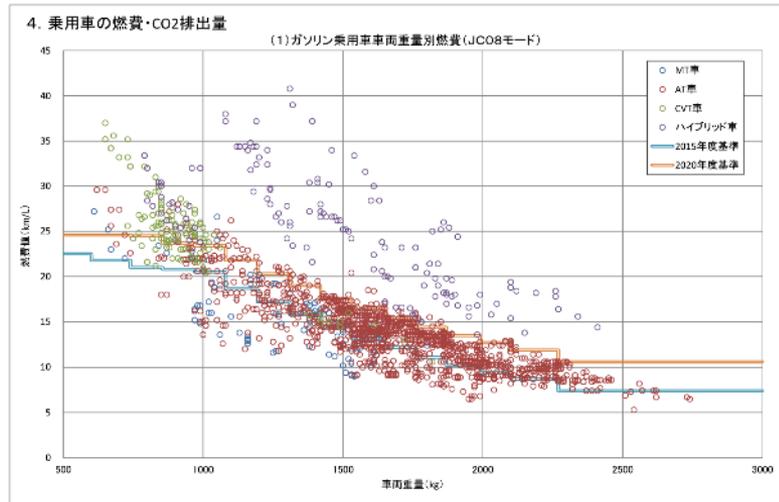
軽くなるほど、より少ないエネルギーで使用できその分、温暖化ガスであるCO₂の排出量を削減できます。

軽量化は長年続く製造業の課題ですが、CO₂排出量の極めて厳しい目標に少しでも近づくには、従来の延長線上の方法ではなく、今「マルチマテリアル」が求められています。

マルチマテリアルとは適材適所を考えて軽い材料を使いこなし、革新的な軽量化を実現することです。

例えば、クルマであれば高張力鋼板やホットスタンプ材、アルミニウム（Al）合金、マグネシウム（Mg）合金、炭素繊維強化樹脂（CFRP）といった軽量材料を“パッチワーク”のようにつなぎ合わせ、従来よりも大幅に軽い車体を実現することです。

これら軽量化材料のなかで、マグネシウム（Mg）合金を扱うことができるフロントランナーであることが**STGの強み**です。

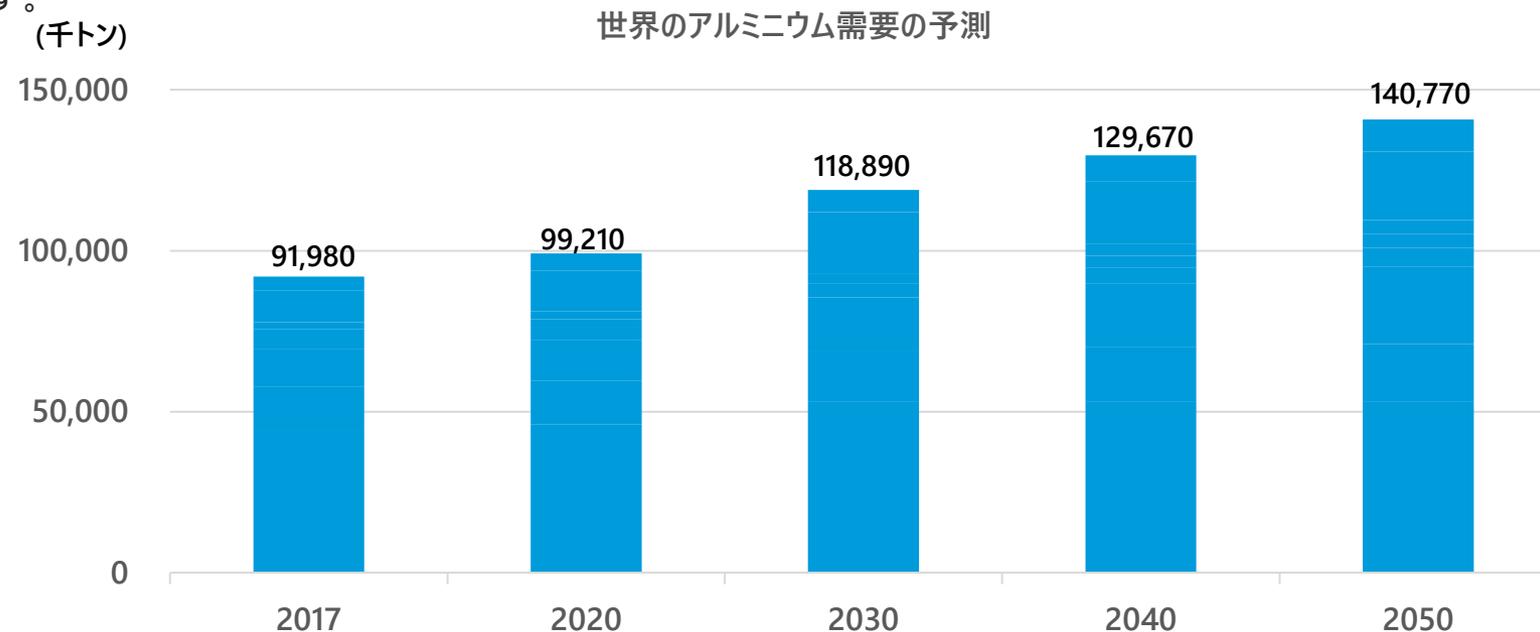


市場環境 - ② アルミニウム部品の需要予想

アルミニウムの需要予想

アルミニウムがマグネシウムに比べて市場規模が大きい理由につきましては、アルミニウムは加工が容易であることから、アルミ缶や建築用材等、社会のあらゆる場面で使用されていることによるものです。

アルミニウムの世界需要は、2017年には約9,200万トンでありましたが、2050年には持続可能性に対する消費者意識の高まりを受けて50%以上増加し、1.4億トン程度と試算されております。アルミニウムは、マグネシウムと同じく軽量化素材として、活用されリサイクル性も高いことから脱炭素化社会に向けて大きな役割を担っている金属です。



市場環境 - ③ 競争環境・競合他社比較

競争環境

国内大手メーカーが参入していない市場

▶ 国内大手メーカーが参入していない市場である理由

マグネシウム合金部品に関しましては、現状において参入障壁が高いと考えています。

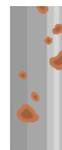
マグネシウムは発火しやすいという特徴があり、特に細かい状態だと簡単に燃えるため、加工の際には火災や爆発などの事故につながる危険を伴います。このため、安全確保を行いながらの作業が求められます。

また、マグネシウムは腐食しやすいこと、成型加工が難しいこと、複雑形状の部品製造には高度な技術が必要なことから新規参入が難しいため、競合が少ない状態が続いています。

マグネシウム合金を
取り扱う難しさ



危険性



腐食しやすい



成型加工が難しい

当社グループには、日本初のマグネシウム専門メーカーであった株式会社東静工業（後の、株式会社TOSEI。現 当社静岡工場）が含まれておりマグネシウムの扱いには、長年の経験とノウハウを有しております。

市場環境 - ③ 競争環境・競合他社比較

競争環境

価格競争が起こりにくい環境

マグネシウムは、取り扱いが難しく作業中の爆発事故等が多く発生したことにより、過去、大手メーカーが撤退し、ライバル企業が少ないニッチビジネスであり、**価格競争が起こりにくい環境**にあります。

取引先

マグネシウム合金部品による軽量化を検討中



どこに依頼しようか？



寸法制度の厳しい製品への対応を依頼したい。



量産にむけて大ロットで発注したい

製品依頼をする会社が限られている



自動車関連からの需要が急増

情報通信機器や精密電気機器からの需要

 株式会社 STG

- ・ライバル企業が少ない
- ・国内大手メーカーが参入していない
- ・新たな企業による参入がほとんどない

一定の顧客を囲い込むことで、さらに大きなビジネスに展開

市場環境 - ③ 競争環境・競合他社比較

受注・生産部品の実績

◎：受注・生産した経験がある ×：生産実績なし

	業務用映像装置部品	自動車部品	カメラ部品	業務用カメラ部品	医療用機器(筐体)	PC筐体	産業機器用部品
STG	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A社	×	◎	×	◎	×	◎	×
B社	×	×	◎	×	×	×	◎
C社	×	◎	×	◎	×	×	◎

対応可能ロットの違い

	小 (~月1千個)	中	大 (月1万個~)
STG	◎	◎	◎
A社	×	◎	◎
B社	×	◎	△
C社	◎	◎	×

STG

- ✓ 国内工場の外、中国、タイ、マレーシアに工場を持ち、大小様々な大きさの部品を製造するための設備を保有
- ✓ 金型設計に長けた技術力を有していることから、機械加工（二次加工）に頼った製造工程ではなく、多品種の製品を製造可能
- ✓ 二次加工にかかる時間が少なくすることによって、多様なロットに対応可能

A社：	国内及び東南アジアに拠点があり、大ロット生産を中心としている。
B社：	国内及び東南アジアに拠点がある。金型による鋳造よりも二次加工による成形を重視した鋳造工程としている。
C社：	製造拠点が国内に特化しており、製造設備が限定的である。

3.

Features and Strengths

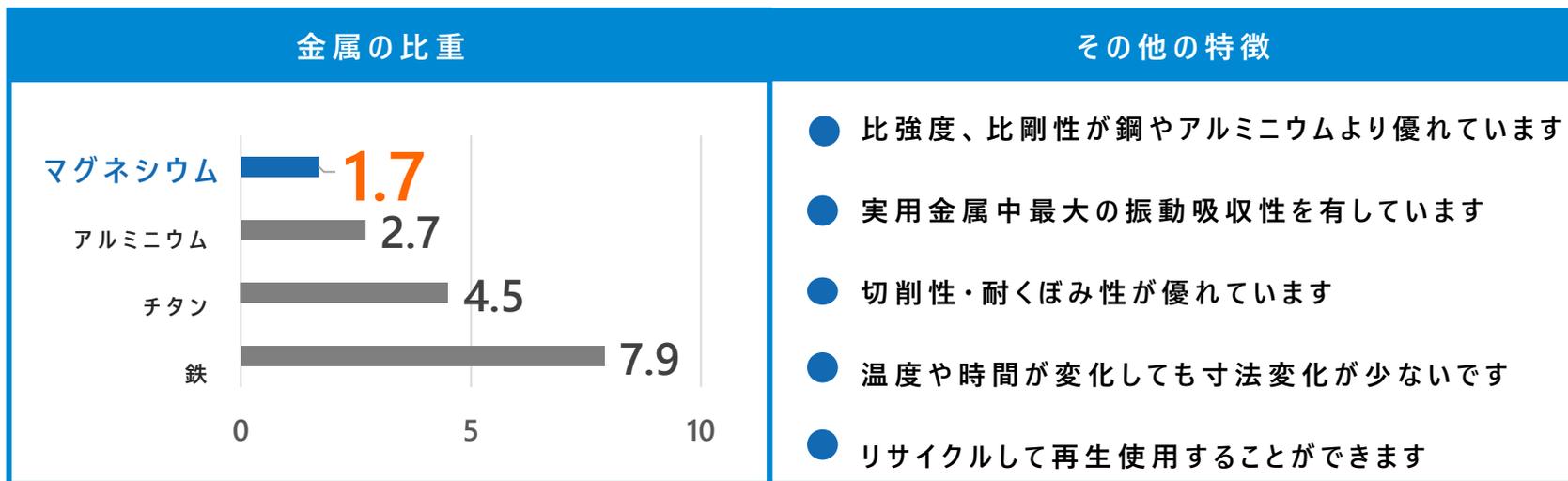
特徴と強み

- ① 製品の特長
- ② 当社グループの強み

特徴と強み - ① 製品の特長

マグネシウムの特性の活用： **実用金属としては最軽量であり、より薄く高強度な製品の製造が可能**
以下の特長から、持ち運びを目的とする製品や、軽量化により燃費効率向上・環境負荷低減等をはかりたい輸送機等のマーケットで需要の拡大が見込まれています。

マグネシウムは、プラスチックより強く、アルミニウムより軽いという特徴を持っています。



アルミニウム特性の活用： **軽量であり、かつ加工が容易**

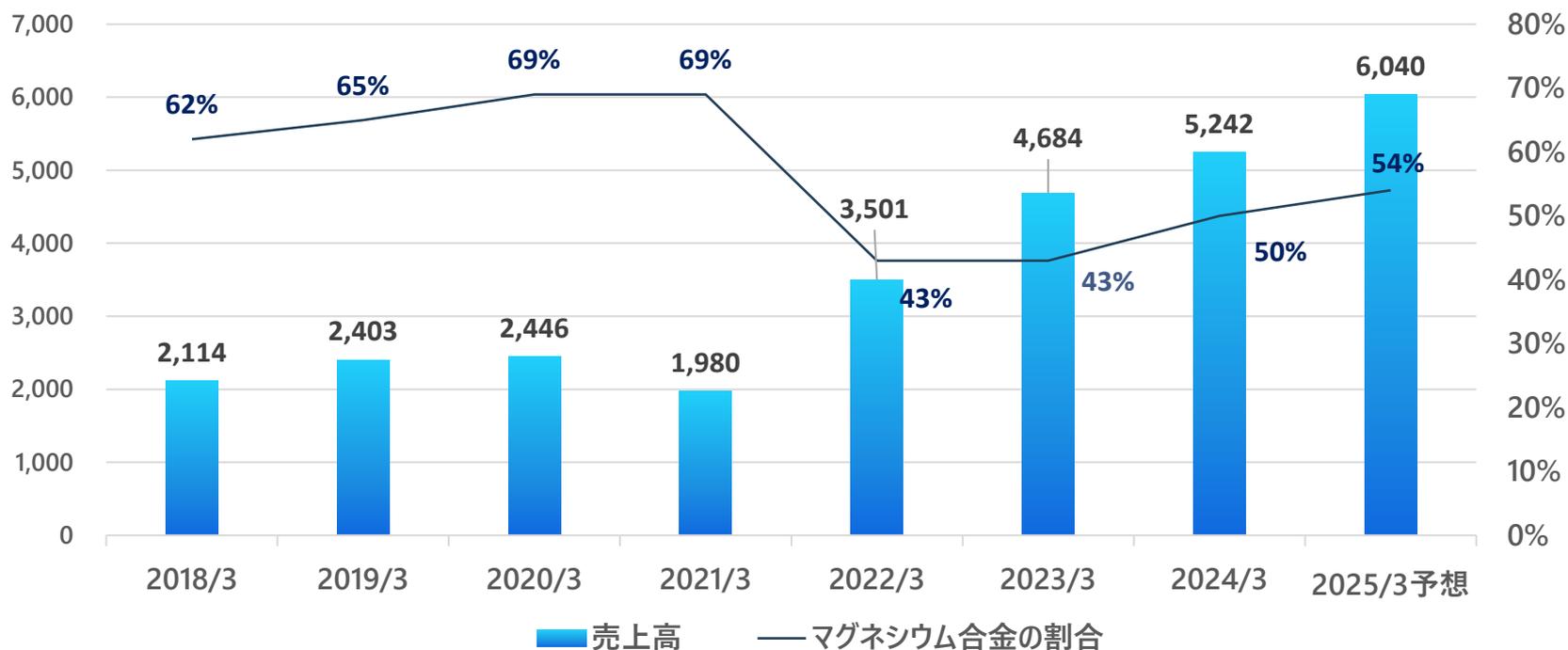
軽量化とコストダウンを求める製品の需要拡大を見込んでいます。

特徴と強み - ① 製品の特長

SONY社VAIOの筐体生産を開始した1997年頃から、マグネシウム合金部品の取り扱いが飛躍的に伸びました。なお、直近ではアルミニウムダイカストなどを取り扱うSTX PRECISION (JB) SDN. BHD.を2021年3月31日に買収したことにより、アルミニウム合金部品、マグネシウム合金部品の売上比率が一時的に接近していますが、今後、**軽量化が進む自動車部品を中心に、マグネシウム合金部品の売上げが更に増加すると見込んでおります。**

(百万円)

売上高におけるマグネシウム合金部品の割合



特徴と強み - ② 当社グループの強み

◆ 様々なバリエーションの最終製品への部品提供が出来る技術力

長年培った技術力により、製品の性能・機能を維持または向上させつつ、コストダウンをはかること、またバリューエンジニアリング提案を行うことで顧客ニーズの実現をはかっております。

この技術力を活かしさらなる成長を遂げたいと考えています。

◆ グローバル化が進むメーカーの生産体制に対応可能

日本のみでなく、中国・タイ・マレーシアに工場があることから、

グローバル化が進むメーカーの生産体制に対応できることも競争力に繋がっております。

さらに、アルミニウム合金による部品も生産していることから、

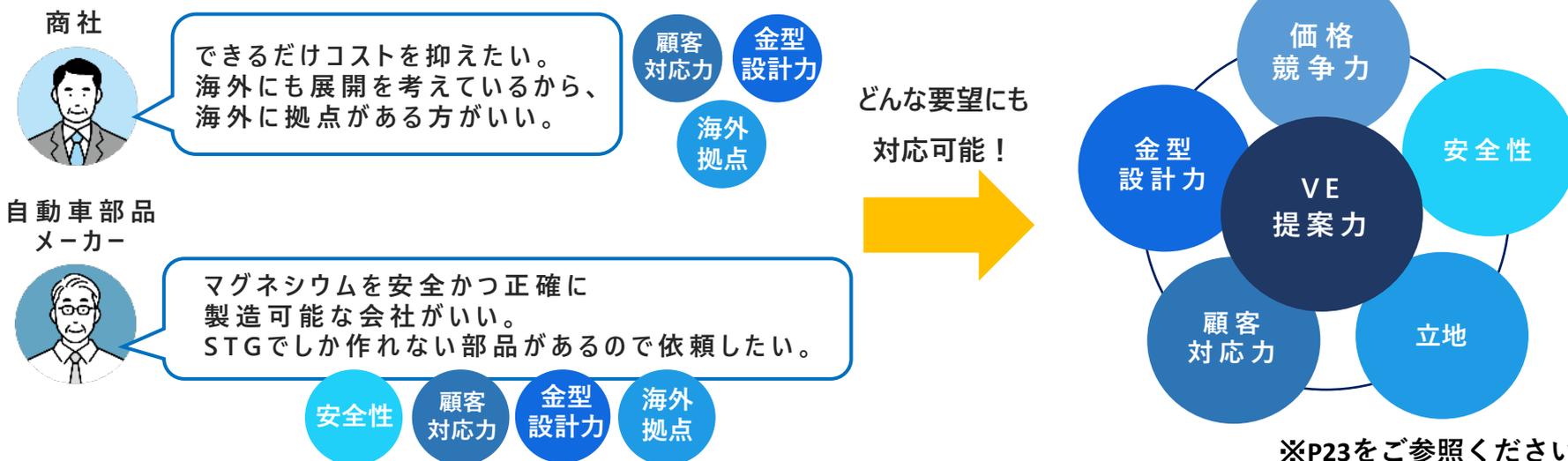
お客様が求める様々なニーズに対応出来る体制となっております。

VE (バリューエンジニアリング) 提案力

製品の性能、機能を維持または向上させつつコストダウンをはかった提案

当社のコアコンピタンス

(イメージ図)



※P23をご参照ください。

特徴と強み - ② 当社グループの強み

◆ あらゆるニーズに対応した部品の製造

多種多様な業界の製品を製造した実績(注1)があり、近年のマーケットに求められる「軽さ」「薄さ」「精密さ」などのあらゆるニーズに対応した部品の製造を行う体制を整えております。

(注1)自動車部品、通信機器、医療機器、産業機器、O A・事務機器など



◆ お客様の依頼に応じた最適な加工方法が可能

他社には真似のできない高品質の表面仕上げ・精密加工技術を駆使して、お客様の製品仕様・用途に応じた最適な加工方法が可能な体制としております。また、各種コストダウンの提案、更には24時間生産による量産体制も完備しております。

お客様が求める製品の仕様・用途を実現すべく、

当社の製造技術により **寸法制度の厳しい製品への対応が可能**です。

	素材寸法公差	薄肉
当社実績	±0.03mm	0.35mm
業界平均水準	±0.05mm	0.6mm

4.

Technical Prowess of
Our Group

当社グループ
の技術力

当社グループの技術力

当社グループでは、具体的には、以下のような技術力に強みをもつと考えています。

金型設計力	製品の性能・機能をより発揮出来る設計をおこない、かつ生産工程全般のコストダウンをはかることを目的とした金型を設計しています。
鑄造技術力	マグネシウムダイカストの鑄造工程においては、特有の技術が必要になります。当社では、長年培った金型及び鑄造技術力で複雑な要素が絡む鑄造が求められる製品についても対応可能です。
顧客対応力	顧客から依頼を受けた部品を単に製造するだけでなく、当社側から製品の性能・機能を維持または向上させつつ、コストダウンをはかることを提案しています。
安心安全な生産体制	当社グループでは、マグネシウムの取り扱いについてのノウハウを蓄積しております。安心安全な生産体制を維持するために、各工場において定期的にチェックをおこなう体制としています。

当社グループの技術力 - 金型設計力

金型設計力①

加工工数を減少させられる金型技術で部品を低コストで提供

現静岡工場の前身である株式会社東静工業は日本初のマグネシウム専門メーカーであることから、長年の経験とノウハウを有しております。

金型設計力による『**抜き勾配ゼロ**』（P.25参照）での部品を生産することにより、

後加工による加工費用に対するコストを低減することができます。

(例)カメラ部品 年間10万個生産



当社グループの技術力 - 金型設計力

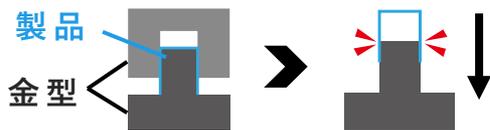
金型設計力②

加工工数を減少させられる金型技術で部品を低コストで提供



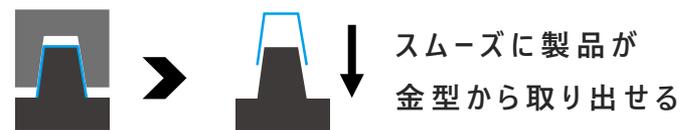
抜き勾配が必要な理由

抜き勾配なし



製品が金型に引っかかり
取り出しが困難

抜き勾配あり



スムーズに製品が
金型から取り出せる

他社の製造においては抜き勾配は必須！

STGの
金型設計

① 完成



抜き勾配ゼロ & 後加工不要

切削加工を行う部分まで、金型でおこなう。

- ・追加切削工程が不要
- ・切削では実現できない形状も成型可能

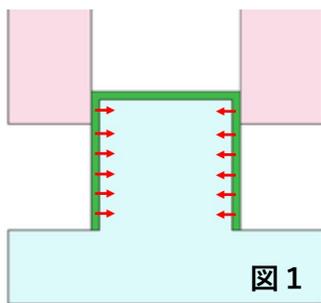
⇒カメラ部品で加工費用の約20%を低減可能。
例) 加工費150円 → 120円 年間10万個 × △30円 = △300万円

当社グループの技術力 - 鑄造技術力

鑄造技術力①

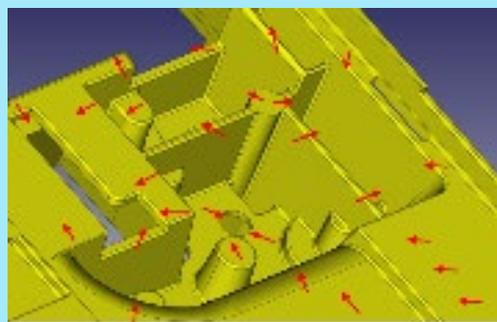
複雑な要素が絡む鑄造が必要な製品についても対応可能

当社で抜き勾配を小さく(条件次第で0°)した金型で鑄造できる理由

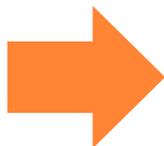


抜き勾配が必要となる大きな要因は、
液体が固体となる際に起きる**体積収縮(凝固収縮)**です。
※矢印方向に製品部分は収縮します。

※実際に生産する製品は複雑な要素が絡むため、一定方向の収縮とはなりません！※



実際に生産する製品には、様々な形状が一つの製品の中にあり、凝固収縮は一定方向ではなく製品の厚み・形状、又は周囲の形状、製造する際の条件等々の複雑に要素が絡み合い、一定方向の収縮とはなりません。



熔融金属を出来る限り**低速・低圧力**で注入し、冷却時の製品温度分布を考慮し、充填性が良く、塑性変形を最小限に抑えるよう、コントロールする鑄造技術を有しています。

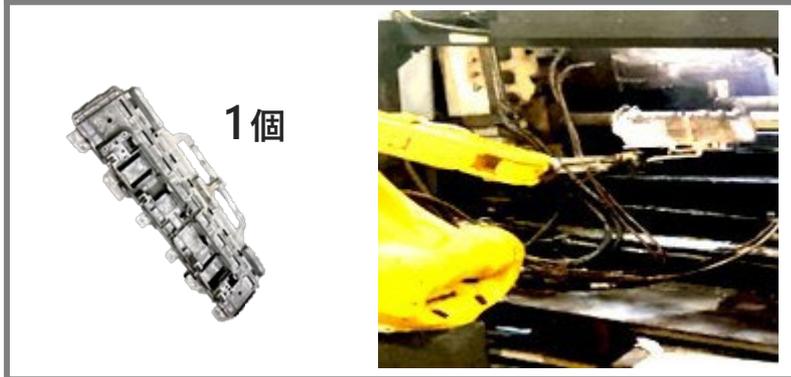
当社グループの技術力 - 鑄造技術力

鑄造技術力②

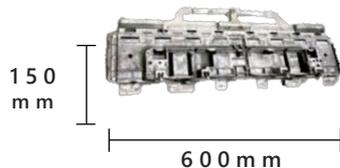
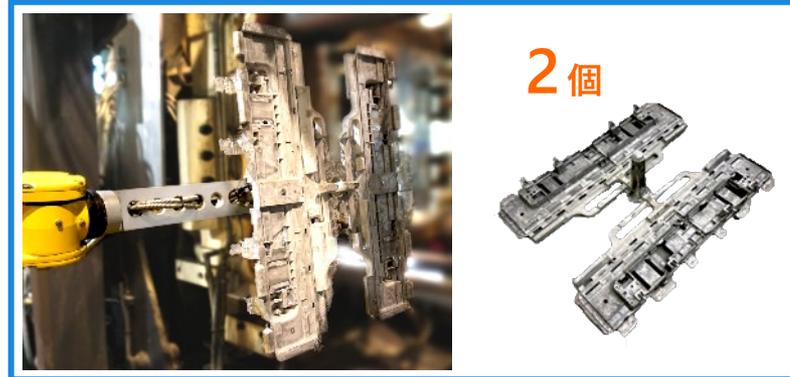
複雑な要素が絡む鑄造が必要な製品についても対応可能

ダイカスト工程において、自動化による**2個取り**を行う事により部品を低コストで提供
当社の金型鑄造技術により、鑄造設備600tでの大型部品であっても2個取りを行うことが可能となり、
金型費用及び原価低減を実現しております。

一般的な自動化による金型取り



STGの自動化による金型2個取り

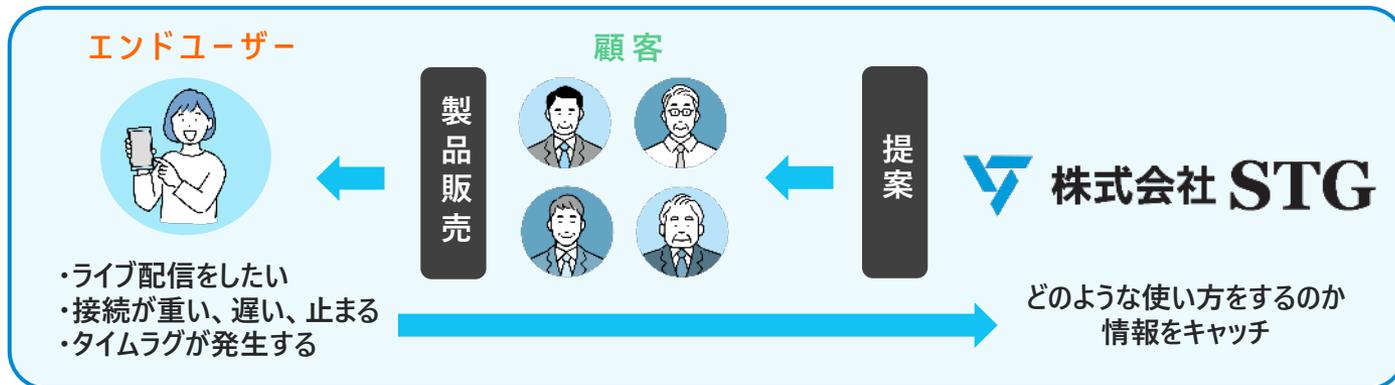


▶ パネル(600×150mmサイズ)部品 材料・鑄造費 約25%を低減可能。
例) 加工費820円 → 615円 年間25万個×△205円 = △5,100万円

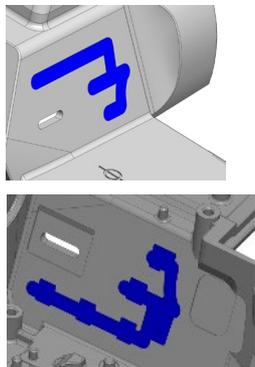
当社グループの技術力 - 顧客対応力

顧客対応力

当社側から顧客へ提案することにより、ニーズに応える



(図1) 外観



業界初！マグネシウム合金と樹脂の一体成形を実現

(図1)

マグネシウムは電磁波遮断性が高いため、電磁波を通しやすくするための加工をしています。
(一般的にマグネシウム合金部品は電磁波遮断性を活かした製品のみであり、
競合他社は製造方法が異なるため、一体成形に必要な金型ノウハウの蓄積がありません。)



SNSでライブ配信等を気軽にタイムリーに出来るようになった。



工程数が削減することで、調達コストの削減につなげることができた。

当社グループの技術力 - 安心安全な生産体制

安心安全な生産体制

安心安全な生産体制の維持に努めています

爆発事故を防ぐために

湿式集塵機を開発



マグネシウムは、取り扱いが難しく作業中の(粉塵)爆発事故等が多く発生し、大手メーカーがマグネシウム事業から撤退する要因となりましたが、当社では、湿式集塵機を開発したことにより、**発火せず安全に化学処理が行えます。**



1998年取得

湿式集塵機 (特許第3481487号)

水槽に1/10に薄めた塩化第二鉄を混入することにより、集積したMg粉じんが酸化マグネシウムになり発火しなくなる化学処理を行います。

消防訓練

定期的に消防訓練を実施し、マグネシウムの取り扱いに対する危険性を、意識するよう努めています。



5.

Business Plan

事業計画

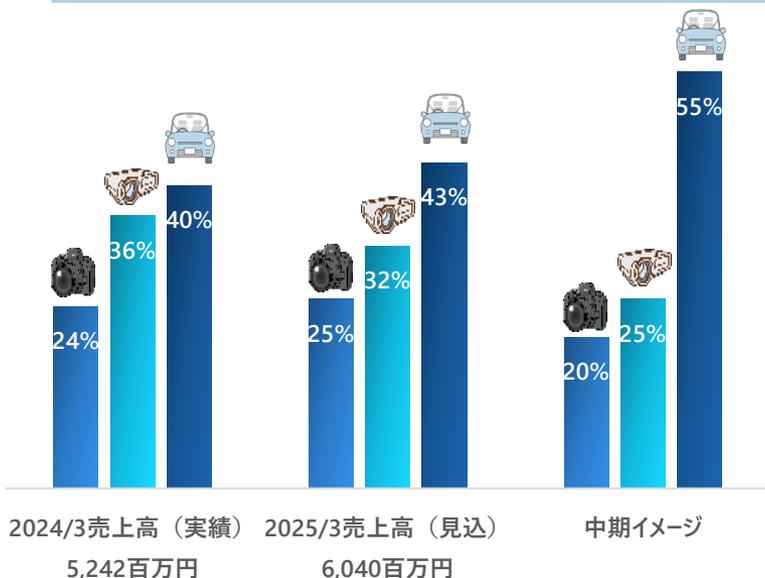
- ① 成長戦略について
- ② 連結業績の推移
- ③ 成長性指標
- ④ 調達資金の使途

事業計画 - ① 成長戦略について

金属部品 casting 及び加工事業における取扱事業者として、これまで幅広い商品への応用に長年取り組んでまいりました。今後、普及が見込まれる電動車等の拡大の肝となるのが、車体の軽量化及び部品の超精密化であり、マグネシウムは軽さや精密化を支える素材として期待されている一方で、取り扱いが難しく高い技術力等が求められます。

当社グループは、

「マグネシウム合金を中心とした電動車・自動運転関連軽量化ソリューション」を戦略ドメインと定め、電動車等の普及に伴う市場拡大による成長機会を捉えます。



マグネシウム専用工場の売上高

(百万円)

	24/3期	25/3期 (予想)	増減率
静岡工場	907	1,039	14.5%
(うち自動車部品)	548	788	43.6%
タイ工場	1,674	2,081	24.3%
(うち自動車部品)	1,091	1,547	41.7%

両工場ともに、自動車部品向けが大きく伸びると考えています。24/3月期までに、静岡工場、タイ工場ともマグネシウムダイキャストに関する増産のための設備投資を完了させており、25年3月期には、大幅な売上増加を見込んでいます。



一眼レフカメラ・ミラーレスカメラ
プロジェクタ等の映像関連機器・医療機器
照明機器ゲーム端末等



電動車・自動運転関連部品

事業計画 - ① 成長戦略について(電動車・自動車部品)

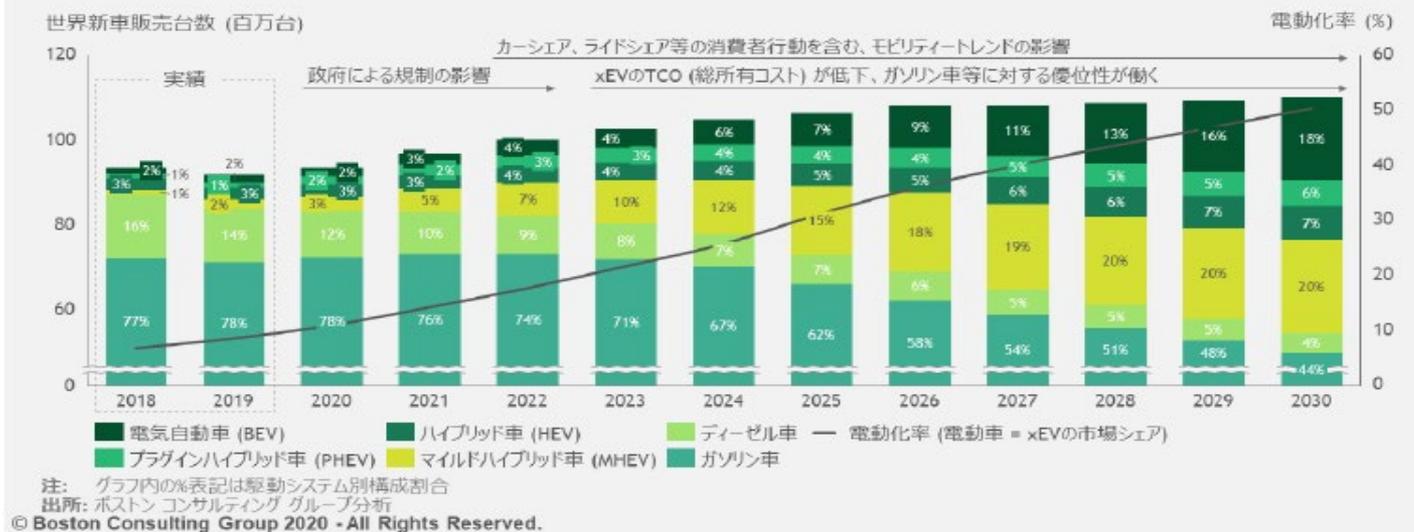
温室効果ガス排出量実質ゼロ(=カーボンニュートラル)への動きに寄与できるよう軽量化製品の拡大に注力し、電動車等の軽量化部品を幅広く取扱うことで、売上・利益の増加を目指します。

燃費の向上に繋がる自動車の軽量化を果たすためには、より低コストで製造できる加工技術が必要とされております。

各国政府や国内外の大手自動車メーカーを中心に、2050年までにカーボンニュートラルを実現するための動きが活発化しており、ガソリン車およびハイブリッドカー(内燃機関)からEV(電気自動車)への転換が進んでおります。

【新車販売台数におけるガソリン車および電動車の割合予測】

図表1: 電動車(xEV)の新車販売台数に占める割合は、2030年に51%に



事業計画 - ① 成長戦略について(営業組織の設置)

営業組織を設置し
積極的に展開

軽量化等を求める新たな製品展開を企画提案するための営業組織を2023年4月に設置いたしました。新規の顧客を開拓することにより、業績拡大を目指してまいります。

従来の営業活動

● 既存顧客

各工場において、既存顧客に対しての技術営業を中心に、新機種・次機種の確認や取引量の拡大交渉及び顧客における他事業部の紹介を促すなどの活動を行っています。

● 新規取引先

先方からの問い合わせに対して、工場長が提案・交渉を行っています。



現在の営業

S T G本社に**営業統括部署を設置し**、マーケティングオートメーションを活用しつつ、顧客の潜在的課題を引き出し、技術提案をおこなうことにより、**軽量化ニーズの取り込みを加速**していきます。

部品名	状況
大手自動車メーカー向けパネル	商社を通じて見積もり済
大手自動車メーカー向けパネル	会社見学済
大型ドローン用モーター	量産開始
大型ドローン用カメラカバー	量産開始
電動自転車	商談中

2024年3月時点

事業計画 - ① 成長戦略について (既存顧客からのニーズの引き出し)

当社グループは、これまで幅広い商品への応用に長年取り組んできたため、加工やコスト低減のノウハウ・アイデアを有しており、競争優位性及び従来の主力素材であったアルミニウムと比較して高い利益率を実現しております。既存顧客のニーズを引き出し、従来製品の改良を狙った取り組みに対して、提案を行い、当社製品販売の新規受注へと繋げております。

既存顧客による軽量化ニーズに対応した新規案件



[出典：日経XTECH 2022年8月1日]

eVTOL（電動垂直離着陸機）への展開を含め、大型ドローンに対する新規受注が発生している。eVTOLは、主に無人の小型ドローンとして物品の配送（ドローン宅配便など）に用いられています。

事業計画 - ① 成長戦略について(設備投資)

■ マグネシウム合金部品の増産への設備投資実施

■ STX PRECISION (JB) SDN.BHD.

(マレーシア工場) へのマグネシウム合金部品のライン新設

マグネシウム合金部品の旺盛な需要に応えるために、アルミニウム合金部品の取り扱いが主力であるマレーシア工場に、**新たにマグネシウム部品の生産設備を設置し、2025年3月期中**の稼働を目指しています。

STX PRECISION (JB) SDN.BHD. 第3工場内にラインを設置



事業計画 - ① 成長戦略について (M & A の活用)

生産能力の向上

国内外の設備投資を引き続き行うとともに、**スピードを重視した生産能力アップ**をはかるために、M & A を積極的に活用してまいります。

(25/3月期の売上増加に対応する設備投資は対応済みです。)

2021年3月STX PRECISION (JB) SDN. BHD.
買収前後の実績

単位：百万円

	売上高	営業利益
2020/12月期	1,629	65
2021/12月期	1,581	△15
2022/12月期	1,814	205
2023/12月期	2,029	267

21/3 買収

買収後

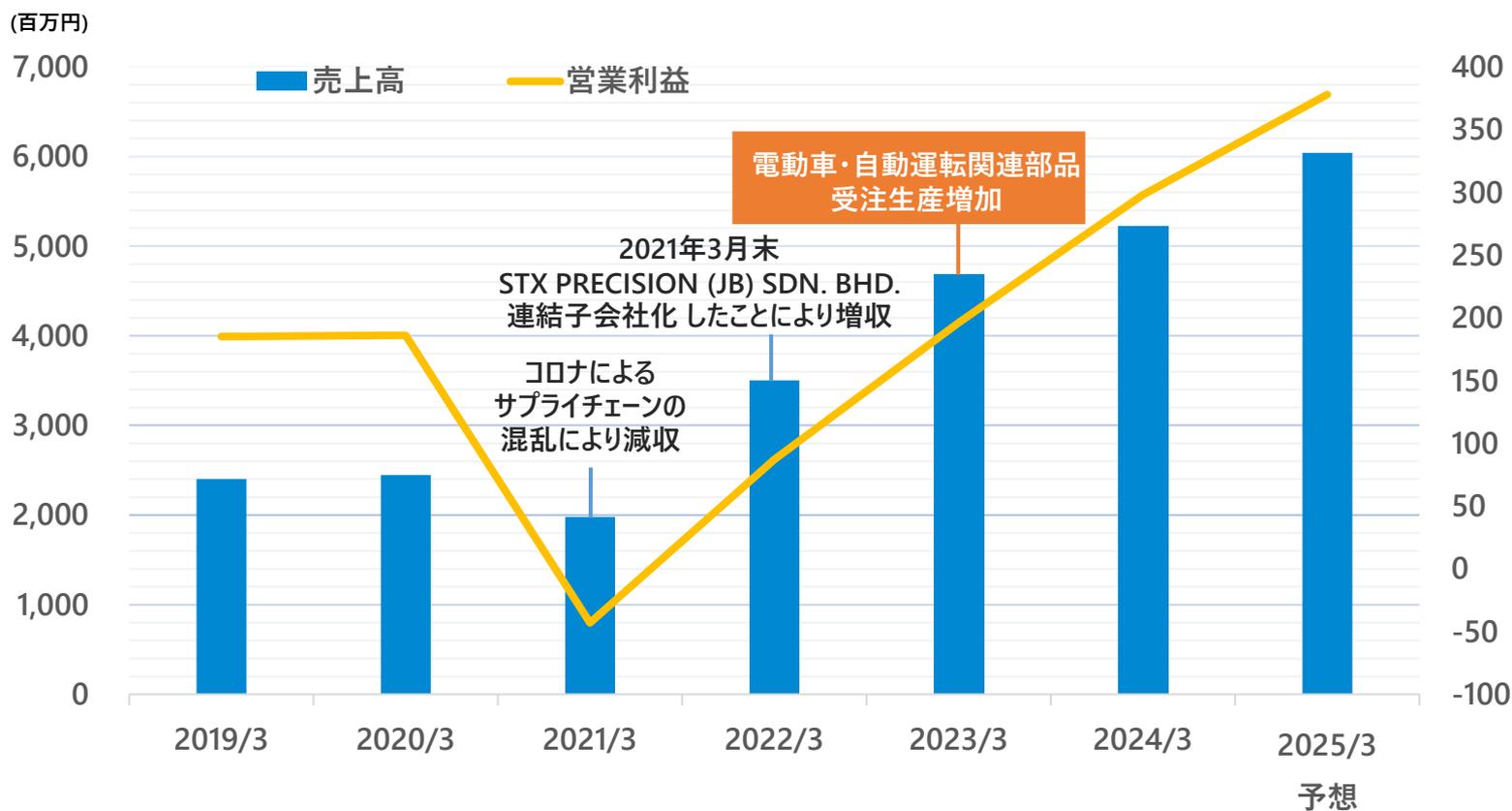
※ 表中では親会社へのロイヤリティーを調整しています。

対象先は国内・海外両面で推進

当社グループは、**過去に2度他社を買収しており、2社とも当社グループの成長に大きく貢献**しています。

過去に培ったP M I (ポスト・マージャー・インテグレーション) のノウハウを発揮するためにも、国内外問わず、対象先を積極的に選定し、速やかに実行してまいります。また、M & A の活用により、当社グループの事業領域の職務経験をもつ経験者人員の増強も、図ってまいります。

事業計画 - ② 連結業績の推移



2025/3予想

売上高

6,040百万円 前期比 +15.2%

営業利益

378百万円 前期比 +26.8%

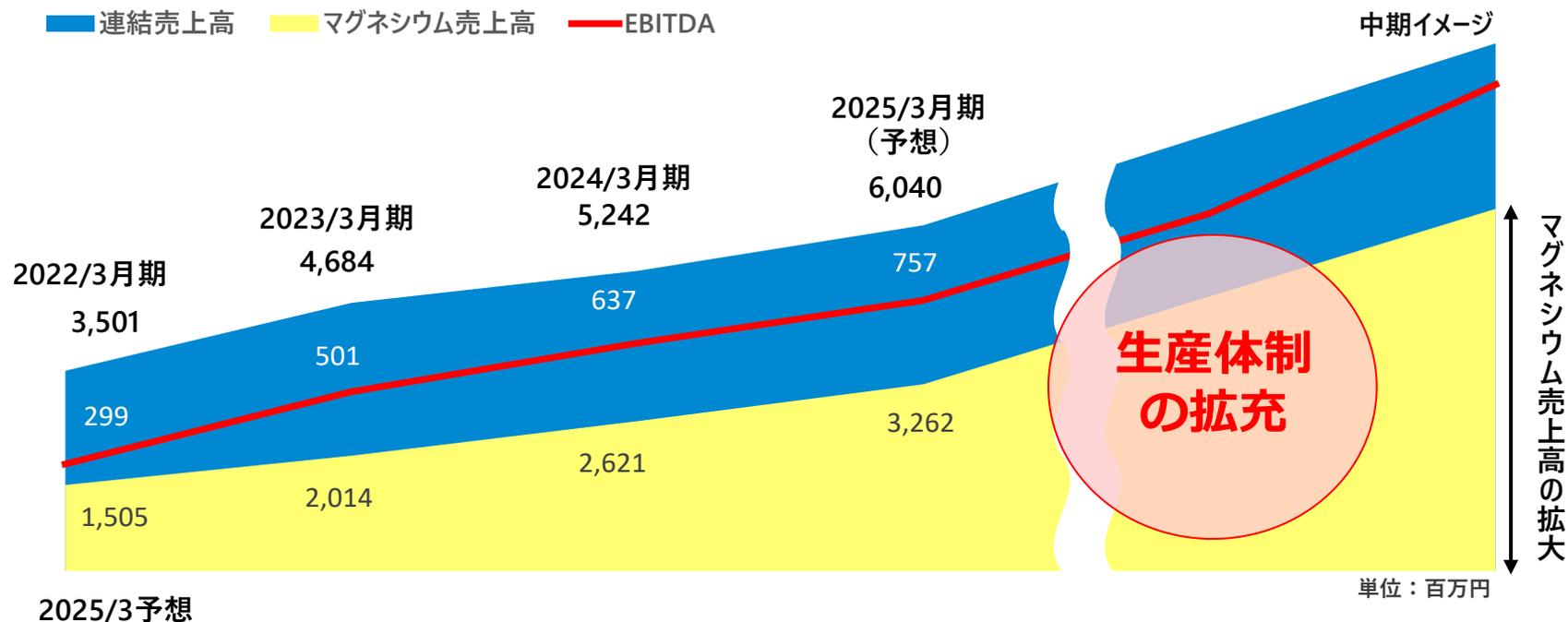
事業計画 - ③ 成長性指標

当社グループは、いまだ成長途上であり、より高い成長性を確保することが最優先課題です。

そのため、売上高の増収を重視しつつ、「**マグネシウム部品売上高(注1)**」及び「**EBITDA(注2)**」を重要な指標として位置づけ、営業基盤の拡大による企業価値の拡大を目指しております。

(注1) 選定理由：長期的に見てマグネシウム部品を採用する工業製品の拡大に対応していくため。

(注2) 選定理由：成長過程において積極的な設備投資が必要であり、これを勘案した収益指標であるため。



マグネシウム売上高

前期比

3,262百万円 **+24.4%**

EBITDA

前期比

757百万円 **+18.8%**

事業計画 - ④ 調達資金の用途

手取額合計332,560千円（第三者割当増資を含む）については、連結子会社であるSTX PRECISION (JB) SDN. BHD.に対する投融資資金として200,000千円を2025年3月期に充当し、残額を運転資金に充当する予定であります。

具体的には以下のとおりであります。

なお、上記調達資金については、具体的な充当時期までは、安全性の高い金融商品等で運用していく方針であります。

① 連結子会社への投融資資金

連結子会社であるSTX PRECISION (JB) SDN. BHD.における生産能力向上のための設備投資資金として、2024年4月に200,000千円を融資しております。

会社名	設備の内容	投資予定額		着手年月	完了予定年月	完成後の増加能力
		総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
STX PRECISION (JB) SDN. BHD.	鑄造機、 CNC工場設備	532	74	2023年 12月	2025年 12月	生産能力 20%増

② 運転資金

手取額合計332,560千円から①を差し引いた残額は、今後の増収に伴い必要となる増加運転資金として2025年3月期中に充当する予定であります。

6.

Risk

リスク情報

リスク情報

【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

リスク情報	影響度	リスク対応策
<p>為替変動について 当社グループは、関係会社を通じて、グローバルに原材料の調達及び製品の供給を行い事業を展開しております。当社グループは連結財務諸表を作成するにあたり、在外子会社の財務諸表を円貨に換算する必要があるため、当該子会社の財務諸表の各項目は、換算時の為替レートの変動の影響を受けます。過去の為替レートと比較し、円高となる場合には、円換算額が表面上減少することになります。</p> <p>また、為替レートの変動は、外貨建てで取引されている原材料、製品の販売価格等にも影響を与える可能性があります。</p>	<p>顕在化の可能性：大</p> <p>影響度：中</p>	<p>為替リスクを減少させるために、連結グループ内で外貨建、資産・負債のバランスをとるようなオペレーションを進めております。</p>
<p>海外事業展開について 当社グループは、アジアを中心に海外事業展開をしております。海外においては、政治、経済情勢の変化、関税(貿易協定や環太平洋パートナーシップ(TPP)協定)等の国際取引情勢の変化、予期しえない法規制の変更、自然災害、テロ、戦争、伝染病の流行等による社会的又は経済的な混乱、労働賃金のコストアップ、慣習等に起因する予測不可能な事態の発生等、それぞれの国や地域固有のリスクが存在します。係るリスクに関して、当社グループでは仕入先の拡充・販路の拡大等によりリスク分散を行っておりますが、これらのリスクが顕在化した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。</p>	<p>顕在化の可能性：低</p> <p>影響度：中</p>	<p>法令等については、専門的な法律事務所等の意見等を聴取するとともに、各種機関の情報収集に努めてまいります。また、当社グループでは仕入先の拡充・販路の拡大等によりリスク分散を行ってまいります。</p>
<p>原材料価格について 当社グループの製品は、マグネシウム合金及びアルミニウム合金を主原料としております。原材料の市場価格が変動した場合、一般的には取引先との合意により販売価格に転嫁することになっていきます。しかしながら、販売価格への転嫁は後追いとなるため、市場価格の上昇局面においては、当社グループの財政状態及び経営成績等に悪影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p>顕在化の可能性：中</p> <p>影響度：低</p>	<p>原材料の市場価格が変動した場合、販売価格の見直しについて顧客との協議を進めてまいります。</p>

その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。なお文中の将来に関する事項は、現在において当社が判断したものであり、将来において発生する可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

また当社のコントロールできない外部要因や必ずしもリスク要因に該当しない事項についても記載しております。

本資料の取扱いについて

本資料は、情報提供を目的として当社が作成したものです。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれおり、これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点において当社が利用可能な情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

なお、今後の当資料の更新は、2025年3月決算発表後（2025年5月）を目途に実施する予定です。